

ますます増える世界の孤児たちに希望の人生を

孤児院に入ってくる子どもたちは、HIVに感染している孤児もおり、両親がいない子どもはもちろん、生年月日の分からない子どもや、もし孤児院に来ていなければ間違いなくもう生きてはいなかったと思える子どもたちばかりです。

現在、礎の石孤児院では、カンボジア、フィリピン、ザンビアにおいて孤児たちを受け入れ、孤児院としての働きをしております。また、日本において児童養護施設設立の支援をしていきます。私たちは、さらに多くの国々で孤児院の働きを始めていきたいと願っています。どうぞご支援をよろしくおねがい致します。

支援金送付先

当団体は認定NPOの認可を受けており、皆様のご寄付は「寄付金控除」の対象になります。

郵便振替	【口座番号】 00130-5-24249 【口座名】 特定非営利活動法人 礎の石孤児院
銀行振込口座	みずほ銀行 五反田支店 【口座番号】 普通 2069305 【口座名】 特定非営利活動法人 礎の石孤児院
銀行振込口座	みずほ銀行 五反田支店 【口座番号】 普通 2915961 【口座名】 特定非営利活動法人 礎の石孤児院 日本での孤児院設立及び支援のため
郵便振替口座	【口座番号】 00120-5-417839 【加入者名】 特定非営利活動法人 礎の石孤児院 日本での孤児院設立及び支援のため

礎の石孤児院・会員(パートナー)募集中

私たちNPO法人「礎の石孤児院」では皆様のご支援金によって各孤児院の運営が支えられており、子どもたちが養われております。定期的に支援金をもって支えてくださる会員を募集しております。

- 会費:1口500円~/月 ●お一人様、何口でも寄付できます
- 会費の納入は【一括】もしくは【分割】を選択できます

お申し込みは郵便番号・住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書き添えの上、下記の住所またはEメールアドレスまでお送りください。(※正会員のお申し込みをご希望の方は事務局にお問い合わせ願います)

特定非営利活動法人 礎の石孤児院東京事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-14-1 クレインズビル岩崎201
TEL:03-5740-8814 FAX:03-5740-8817
E-mail:ishizue@athena.ocn.ne.jp

礎の石孤児院WEBSITE <https://cornerstone.or.jp>

f 礎の石孤児院のFacebookページを「いいね!」して活動を応援してください。



お誕生会用の子ども達が作ったバースデーケーキ(カンボジア孤児院)

皆様の御支援、御協力、いつもありがとうございます。

このニュースレターを執筆している現在、カンボジア孤児院の前田さんが一時帰国しています。日本滞在の期間は短いですが、簡単な報告の時間がある予定ですが、たとえ時間は短くても、少しでもおおくの方々に孤児院の働きを知って頂ければ、と思っております。

また今現在、世界で危惧されているのがロシアとウクライナの問題です。

このレターが皆さんの元に届くころには、なんとか平和的に解決されていることを心から望んでいますが、もしものことがあれば、大規模な損害と当事国内に非常に多くの孤児たちが生まれてくる可能性があります。

このことだけを見ても、2022年以降は今まで以上に、子供たちに対するケアの問題を強化していく必要があると言わざるを得ません。

そのためには、どうか皆様の御支援、御協力、何卒よろしくお願い致します。

認定NPO法人 礎の石孤児院 理事長 北野 直人

カンボジア孤児院レポート

ルツ前田

チョムリアブスワ!(こんにちは!)『礎の石孤児院』の働きの為の皆様からのご支援とご協力を、心から感謝申し上げます。カンボジアは、コロナ感染防止の為にすでに3回目の接種を多くの方々が終わっていて、現在は4回目のワクチン接種が始まっています。現在オミクロン株の感染が広がって来ていますが、休校とかという状況はありません。1年近く休園になっていた幼稚園が1月から再開して、孤児院にいる2人の幼稚園児達はちゃんと行けるかどうかちょっと心配でしたが、1回を除いて嬉しそうに登園することが出来ていて、感謝しています。カンボジアで活動されていた日本人のご家族が今回帰国されることになり、これまで使われていた沢山の備品などを孤児院の働きの為に持って来て下さいました。思いがけないご支援品に、本当に感謝しています。早速、古くなっていた子ども達の実室で使っていた整理棚を交換することが出来ました。また、10数年前から使っているDVDプレーヤーの調子が悪くなっていましたが、これも知合いの方から中古を頂いて、子ども達もテレビタイムを楽しむことが出来ています。皆様からの継続した子ども達へのご支援を心から感謝申し上げます。



幼稚園に行く前に遊ぶPT(写真中央)とAN(右)、左はお留守番組のSV

フィリピン孤児院レポート

エレノア・V・タイロス

フィリピン子どもたちに対する皆様のご支援を感謝致します。

1月下旬、コロナウイルスの感染拡大で再びロックダウンとなり、オンライン授業も一時ストップとなりましたが、1月31日(月)から無事再開されました。

就学支援生たちの学期テストが今週でほぼ終わります。

子どもたちはそれぞれ提出期限に間に合うように全力を尽くして頑張ったようです。

きっと良い成績を取ることが出来ると思います。

必要な学用品購入のためにご支援を頂き、ありがとうございました。各地域のスタッフが受取りに来てくれて、徐々に子どもたちのところに届けられています。

皆様の子どもたちに対する愛と変わらないご支援に心から感謝致します。

皆様のご支援無しにはこの働きを続けていくことは出来ません。

皆様のご家族、お仕事の上に祝福がありますよう願っています。



子どもたちに必要な学用品を届けることが出来ました

ザンビア孤児院レポート

シオン桜子ムタレ

ムリシャーニ(お元気ですか)?皆様のご支援に心より感謝申し上げます。遂に23名の孤児たちが入学しました!そのほとんどが幼稚園部と1年生です。まだ足元が覚束ないような子ども達も、制服を着てやって来る姿の愛らしいこと。学校での生活は、トイレの使い方を教える事などから始まっています。残念な事に、入学したばかりのひとりの少女の母親が亡くなりました。HIV/AIDS発症によるものでしたが、面倒を見ていた祖母の負担(他にも何人もの孫が同居しています)があまりにも大きい事と、生活が非常に困窮していることを鑑みて、急速少女の妹も学校で受け入れる決定をしました。悲しいストーリーではありますが、ンゴンベというスラムでは、このような状態にいる家族は山ほどいて、むしろ衣食住が安定している家庭を見つける方が難しいのです。それ故に、更にわたしたちの活動を今まで以上に早く、大きくして、もっとたくさんの孤児たちを受け入れていく必要があります。特に高等学校の建築費用2千5百万円へのご協力をどうぞよろしくお願い致します。



困窮する祖母と孫娘

ブラジル孤児院レポート

松本弘子

皆様のご支援をありがとうございます。

2月11日から3月16日の予定で一時帰国しています。先日は不思議なことがありました。以前私が住んでいた家の同じ敷地内に、看護師さんが住んでおられました。彼女は老人ホームの経営者で、一度訪問したことがあります。つい最近、彼女のことをふと思い出し、今どうしてるかなと思いましたが、そして外出したのですが、なんと彼女の老人ホームの看板が全然違う場所に出ていました。こういった施設は突然訪問しても普通は門前払いなので、帰宅してから電話してみました。懐かしい声で「どうして呼び鈴を鳴らさなかったか」と言われました。後日その建物の前を通りかかった時、見覚えのある女性が門の前に立っていました。そこで一緒に働いている別の看護師さんでした。自然な形でご挨拶できて、事務室に案内していただきました。あれから2回引っ越しをしたと言っておられました。嬉しい再会でした。

ブラジルでは老人ホームと児童養護施設は社会福祉団体の同じ範疇にあります。

将来的に何かご指導いただけたらと思いました。



一時帰国した松本さん